

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 17 年 10 月 20 日 (2005.10.20)

【公開番号】特開 2003-167190 (P2003-167190A)
 【公開日】平成 15 年 6 月 13 日 (2003.6.13)
 【出願番号】特願 2002-196159 (P2002-196159)
 【国際特許分類第 7 版】

G 0 2 B 13/00
 G 0 2 B 13/18
 G 1 1 B 7/135

【F I】

G 0 2 B 13/00
 G 0 2 B 13/18
 G 1 1 B 7/135 A

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 6 月 29 日 (2005.6.29)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】請求項 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【請求項 5】

前記色収差補正用光学素子は、次式を満たすことを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の色収差補正用光学素子。

$$0.5 \times 10^{-2} < P_D < 15.0 \times 10^{-2}$$

ただし、

P_D ：前記色収差補正用光学素子の第 i 面に形成された回折構造により、前記色収差補正用光学素子を透過する波面に付加される光路差 b_i を光軸からの高さ h_i (mm) の関数として、 $b_i = n_i \cdot (b_{2i} \cdot h_i^2 + b_{4i} \cdot h_i^4 + b_{6i} \cdot h_i^6 + \dots)$ により定義される光路差関数で表したとき (ここで、 n_i は第 i 面に形成された回折構造で発生する回折光のうち最大の回折光量を有する回折光の回折次数、 b_{2i} 、 b_{4i} 、 b_{6i} 、 \dots は、それぞれ 2 次、4 次、6 次、 \dots の光路差関数係数である)、 $P_D = (-2 \cdot b_{2i} \cdot n_i)$ により定義される回折レンズとしての回折パワー (mm⁻¹)

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】請求項 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【請求項 7】

少なくとも 1 つの面上に複数の輪帯段差からなる回折構造を有し、次式を満たすことを特徴とする色収差補正用光学素子。

$$1.0 \times 10^{-2} < P_D < 10.0 \times 10^{-2}$$

ただし、

P_D ：前記色収差補正用光学素子の第 i 面に形成された回折構造により、前記色収差補正用光学素子を透過する波面に付加される光路差 b_i を光軸からの高さ h_i (mm) の関数として、 $b_i = n_i \cdot (b_{2i} \cdot h_i^2 + b_{4i} \cdot h_i^4 + b_{6i} \cdot h_i^6 + \dots)$ により定義される光路差関数で表したとき (ここで、 n_i は第 i 面に形成された回折構造で発生する回折光のうち最大の回折光量を有する回折光の回折次数、 b_{2i} 、 b_{4i} 、 b_{6i} 、 \dots は、それぞれ

2 次、4 次、6 次、・・・の光路差関数係数である)、 $P D = (-2 \cdot b_{2i} \cdot n_i)$ により定義される回折レンズとしての回折パワー (mm^{-1})